

木のおもちゃ 制作について

取手聖徳女子中学校

この課題は環境保護（SDGs）の学びと共に、人のためにもものを作るというデザイン（思考）の学びです。

●美術科は本校のセミナーハウスのある、長野県庁と佐久森林組合の協力により森の学びと間伐材・不要材を提供をいただき、使う幼児のことを考えた木のおもちゃを作り、地元の保育園に贈るという授業を行なっています。

※幼児に危険でないこと、木の良さを感じさせることを気をつけます。

【木材について】

○長野県佐久市の学園セミナーハウスでの体験学習の際に、長野県庁の職員の方や林業協同組合の方に森林についてのレクチャーとともに、間伐材をいただいて帰ります。

※この年は間伐材を使っての箸作りもしました（箸はその後秋田県の漆職人さんの手により漆仕上げをしていただき、4ヶ月後に手元に届きました）



※写真は姉妹校のものを含む

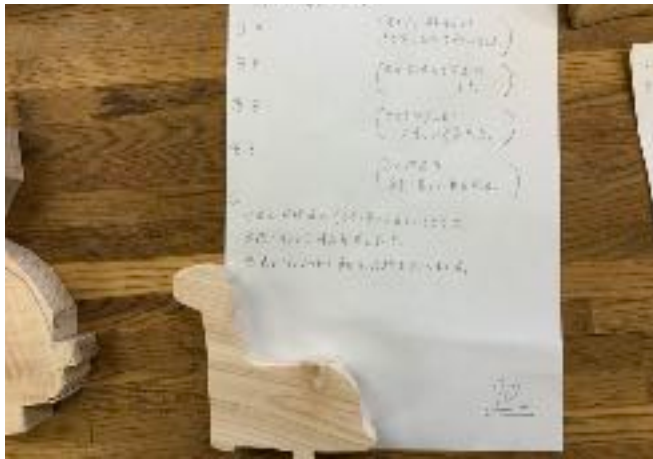


●木の良さについて、地元の木造建築を手掛ける工務店の方にレクチャーを受けました。

（住まい工房ナルシマさん協力）

【作業について】

○従来の糸鋸や木工やすりなどでは塊の木材から作品を作るのは女子の手では困難です。アイデアを形にするために様々な道具の力も借りて作品を作りました。



生徒の感想

「木のおもちゃを一から自分の手で作っていくのはやりがいを感じました。」

「材料から形を切り出して削ったりしながら自分のイメージになっていくところがいいなと思いました。」

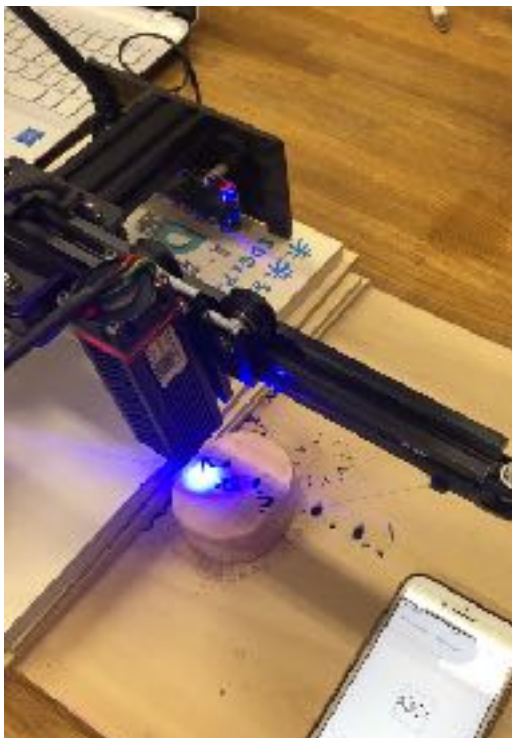
【コロナ対策の処理について】



ももとの予定では、木の肌触りを生かすため、塗装などはしない予定でしたが、新型コロナウイルスのためにおもちゃの消毒が肌触りに問題を起こすことがわかりました。

そこで、高校生の美術の授業などで協力をしてもらいました。

水で表面が荒れないようにすると、木の本来の肌触りが少しでも感じられるように、細かな作業になりました。



学校名の焼印やヒヨコのデザインについて

レーザーカッターという機械で絵柄を写真に撮ったものやスマートフォンで作ったデザインを木に焼き付けました。

今回保育園に贈るおもちゃは、3年生の美術の作品です。

